ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

こどもまんなか
こども家庭庁

こども家庭審議会障害児支援部会	
第15回（R7.10.22）	資料４

社会保障審議会障害者部会	
第151回（R7.10.20）	資料２

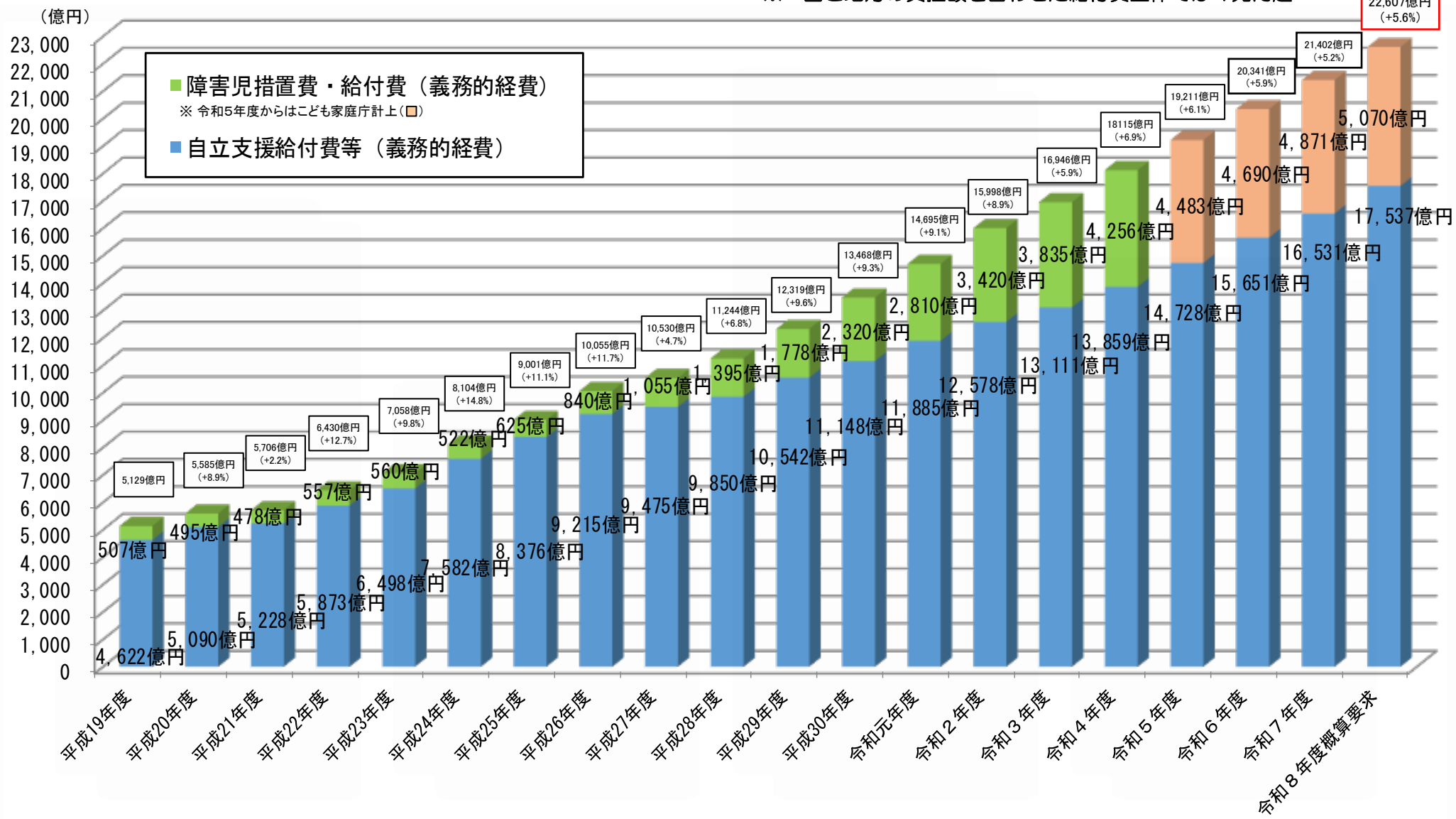
障害福祉サービス等の費用の状況について

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課
障害福祉課
こども家庭庁支援局障害児支援課

障害福祉サービス等予算の推移

障害福祉サービス関係予算額は１９年間で約４倍に増加している。

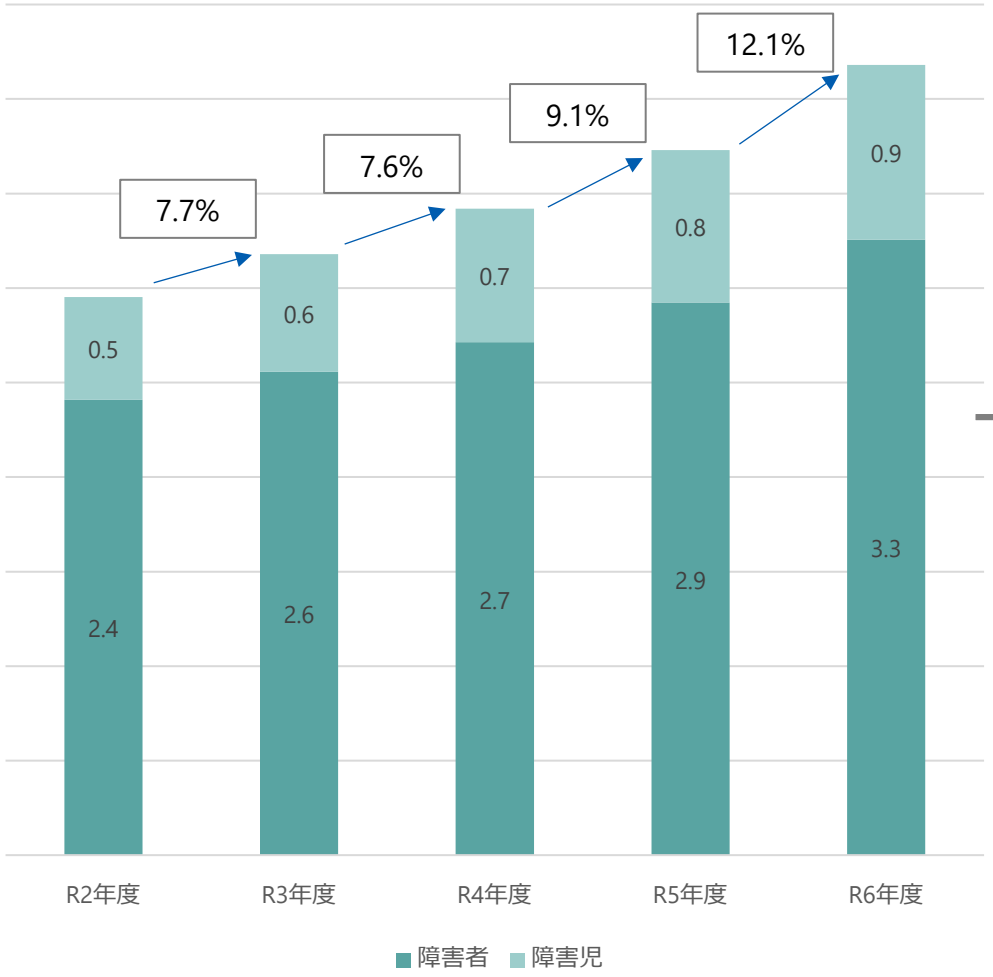
※　国と地方の負担額を合わせた給付費全体では４兆円超



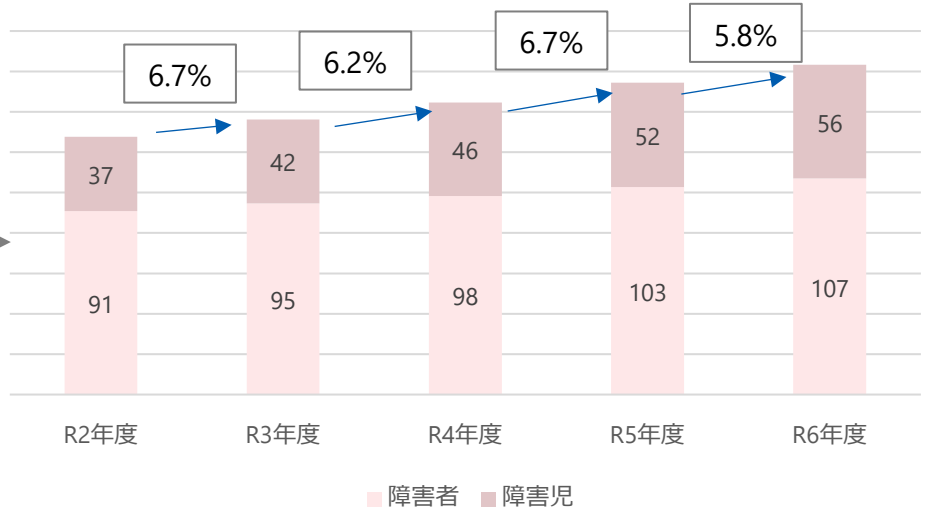
近年の障害福祉サービス等の総費用額の動向

近年の障害福祉サービス等の総額の動向をみると、持続的に伸び続けているが、特にR5→R6年度にかけて急伸（12.1%）。
この間の総額、利用者数、一人当たり費用額の動きは下図のとおり。

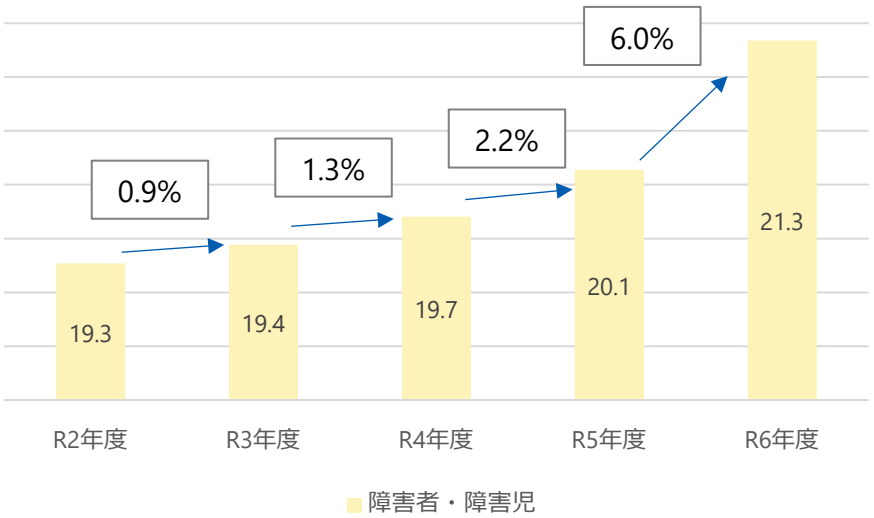
総費用額の推移（兆円）



平均利用者数(１ヶ月平均)の推移（万人）



一人当たり費用額(月額平均)の推移（万円）



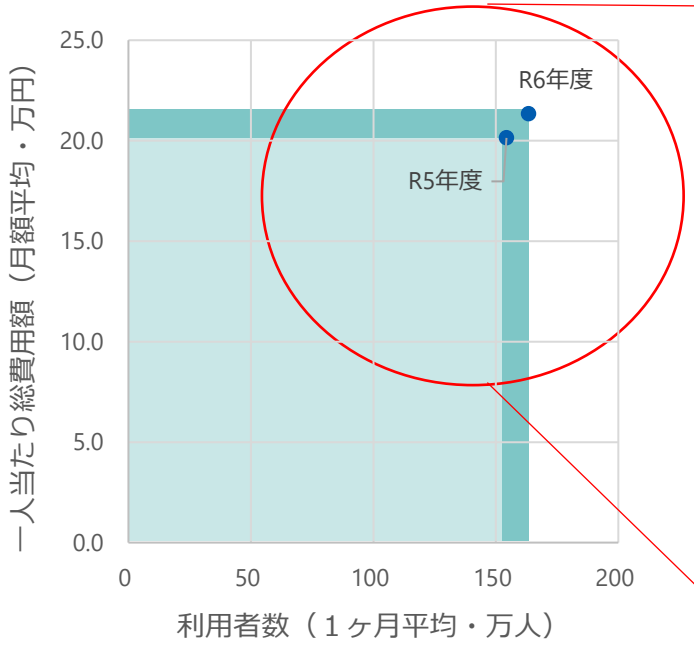
（出典）国保連データ

R5→R6年度の障害福祉サービス等の総費用額の伸びの状況

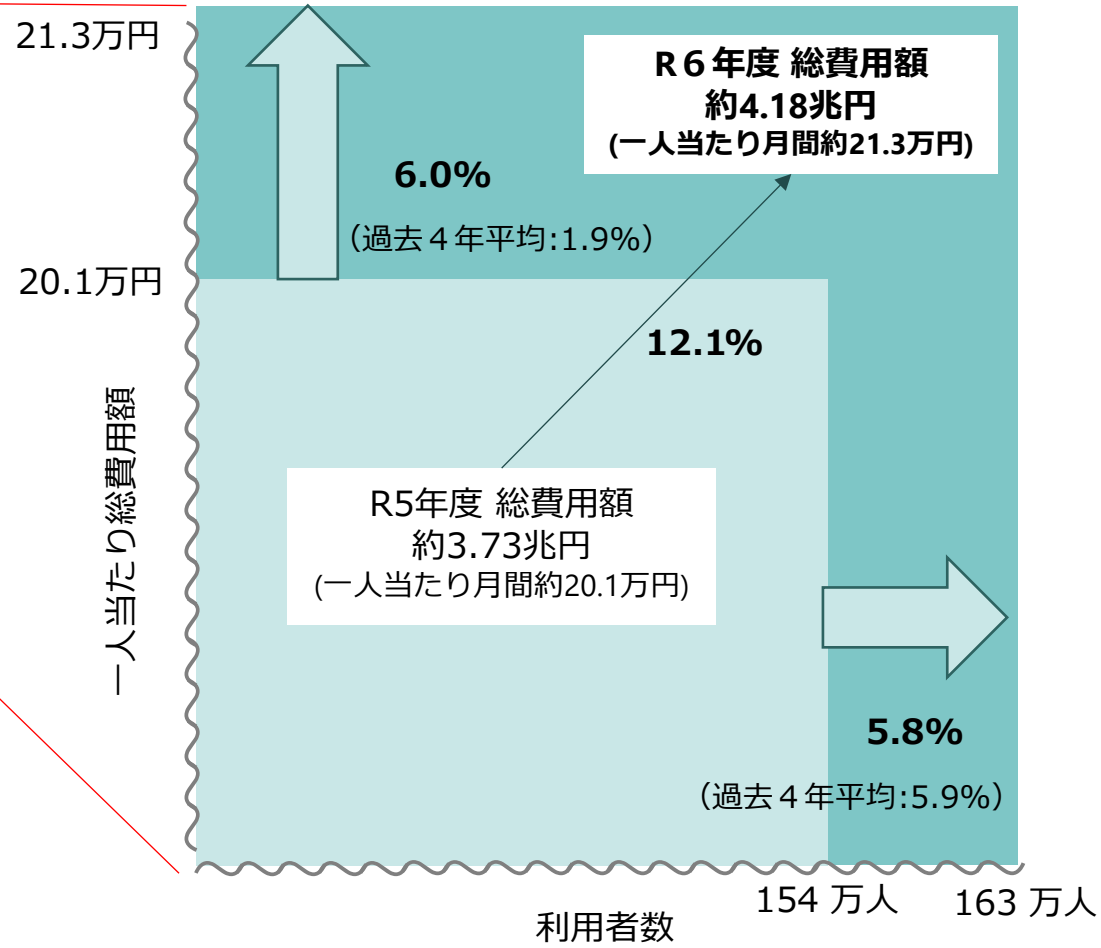
- 最近の政府予算では、対前年度５～６％程度の伸び(※)を確保してきたが、R5年度からR6年度の費用の伸び(12.1%)は、これを大きく上回っている。　※ R3年度:+5.9%、R4年度:+6.9%、R5年度:+6.1%、R6年度:+5.9%、R7年度:+5.2%
- このR5年度からR6年度の伸びの状況を見てみると、
  - 一人当たりの総費用額が、R6改定の改定率(＋1.12%)を大きく上回って、 6.0%の伸びとなっている
  - 利用者数は、近年の動向と同様に、5.8%の伸びとなっている

  ⇒　制度の持続可能性を確保する観点から、検討が必要

一人当たり総費用額と利用者数から見た総費用額



R5年度→R６年度の給付費の変化(伸び方)のイメージ



（出典）国保連データ

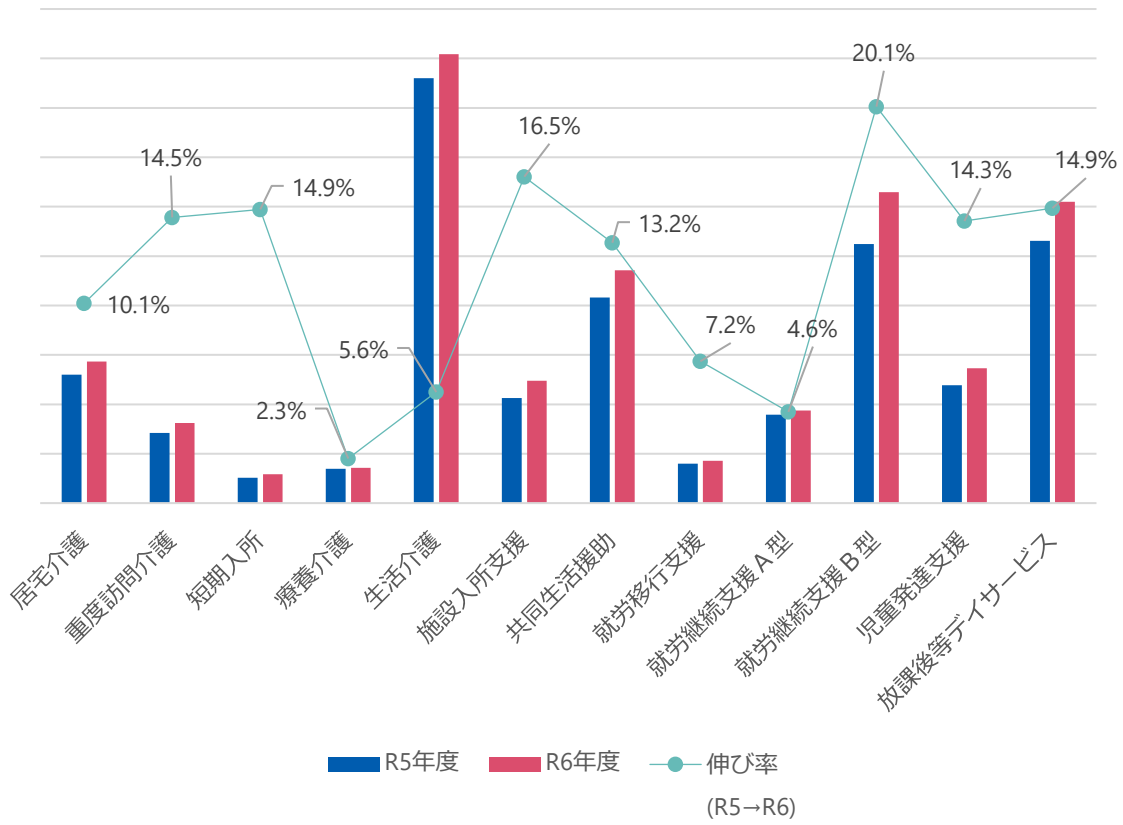
R5→R6年度の主なサービスごとの年間総費用額の推移と伸び率

- 年間総費用額全体に占める割合が１％以上のサービス類型について、R5年度からR6年度にかけての年間総費用額の伸び幅・伸び率は以下のとおり。

年間総費用額と伸び幅・伸び率

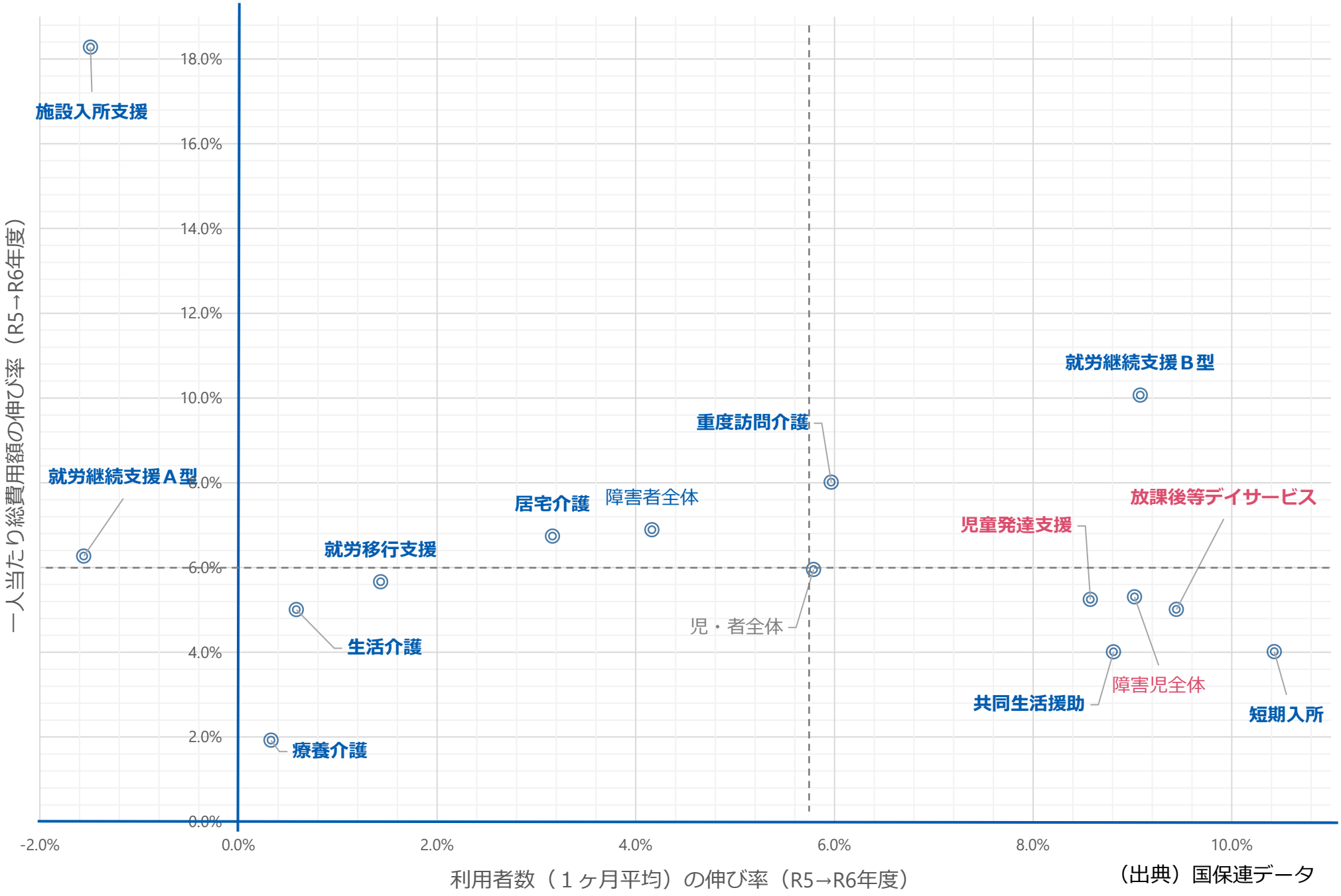
	年間総費用額（億円）		伸び幅 (R5→R6)	伸び率 (R5→R6)
	R5年度	R6年度		
居宅介護	2,600	2,863	263	10.1%
重度訪問介護	1,417	1,622	205	14.5%
短期入所	511	586	76	14.9%
療養介護	697	713	16	2.3%
生活介護	8,602	9,085	483	5.6%
施設入所支援	2,124	2,475	351	16.5%
共同生活援助	4,163	4,712	548	13.2%
就労移行支援	800	858	57	7.2%
就労継続支援Ａ型	1,792	1,875	83	4.6%
就労継続支援Ｂ型	5,242	6,294	1,052	20.1%
児童発達支援	2,388	2,728	341	14.3%
放課後等デイサービス	5,306	6,098	792	14.9%
障害者	29,234	32,548	3,315	11.3%
障害児	8,067	9,261	1,194	14.8%
全体	37,300.7	41,809.8	4,509	12.1%

サービスごとの年間総費用額と伸び率の比較（イメージ）



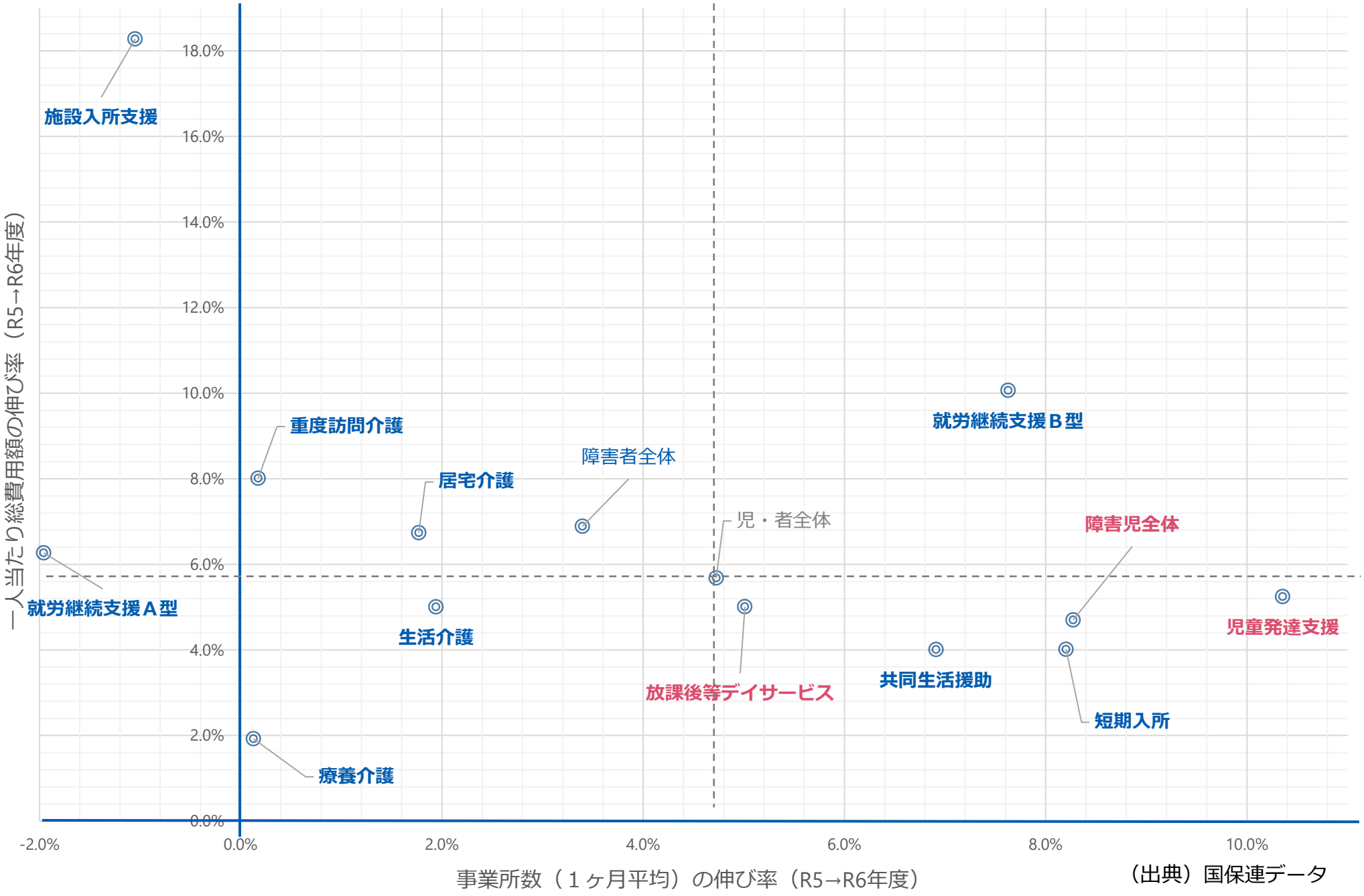
（出典）国保連データ

R5→R6年度の一人あたり費用額の伸び率と利用者数の伸び率(主なサービスごと)



（出典）国保連データ

R5→R6年度の一人あたり費用額の伸び率と事業所数の伸び率(主なサービスごと)



（出典）国保連データ